

大谷大学・大谷大学短期大学部
学長 草野 顕之 殿

2012年度 自己点検・評価報告書 概評

大谷大学及び大谷大学短期大学部（以下「本学」という。）は、建学の理念を実現し、本学の中・長期目標を達成して、社会的使命の遂行に資するために、教育研究活動等の状況について、自ら不断に点検および評価を行い、その内容を社会に公表している。

上述の取り組みの一環として、2012年度からは、教育研究に関わるすべての組織（以下「組織等」という。）が、それぞれの目標、行動計画を策定し、それについての点検・評価活動を実施し、その結果を自己点検・評価報告書としてまとめ、提出する取り組みをはじめた。組織等からは、あわせて62件（各学科31件、事務局31件）の報告書が提出された。

自己点検・評価委員会は、組織等から提出されたこれらの自己点検・評価報告書について、所見を作成し、委員会としての評定を明示して、最終的に「2012年度 自己点検・評価報告書」をとりまとめた。2012年度の報告書の内容から、組織等は、設定した目標、行動計画に対し、おおむね真摯に取り組んでいる様子が窺える。しかし、少数ではあるが取り組みが不十分と判断せざるをえないC評定も存在している。

また、2012年度は、組織等において自己点検・評価報告書を作成する初年度ということもあり、報告書作成についても、いくつかの課題が指摘された。

- ① 目標・行動計画の立て方や評定の仕方が、組織によって様々であり、統一されていない。
- ② 達成基準を明記していない目標・行動計画であるため、評価困難なものがある。

このように、若干の課題が存在しつつも、組織等全体をあげて自己点検・評価活動を実施し、その結果を報告書として作成するという第一歩を踏み出したということは、本学における内部質保証の構築において、大きな意義があると言える。

また、2012年度の課題を踏まえ、2013年度の自己点検・評価報告書の作成において、「達成基準」の明記等必要な改善についての指摘も行っている。

ひきつづき、自己点検・評価活動が、本学に必要な改善へとより一層結びつくための努力をしていきたい。

2013年7月16日

自己点検・評価委員会 委員長 水島 見一